令和５年度　南信州広域連合地域自立支援協議会権利擁護部会　報告

1. 本年度のねらい・目標

　障がい者の権利擁護の法律が施行されているが、地域の中で理解してもらうため、基本的な権利擁護についての研修や身近な事例を通した学習を進める。また県自立支援協議会、南信州広域連合地域自立支援協議会の各部会との連携をとり、圏域全体の権利擁護意識の向上に努める。

２．部会の開催及び取り組み内容

開催日時　年４回（偶数月 概ね第２金曜日13:30～15:00　さんとぴあ飯田第2講習室）

* 4月14日　(金)　13:30～　　三役会議にて今年度の方針検討

第１回　６月9日　(金)　13：30～

障がい者権利擁護研修会　　　　参加者44名

「虐待防止法と支援者の役割・取り組みについて」

　　　　　　　　　　　講師　飯田保健福祉事務所福祉第二係長　本田典史氏

　　　　　　　　　　　　　　喬木悠生寮相談支援専門員　　　勝又小百合氏

　＊Zoomでのオンライン開催

第２回　８月２5日　(金)　13：30～

　　成年後見についての研修　　　　参加者15名

「成年後見センターの事例をとおして学ぶ」

　　　　　　　　　　　　 講師　いいだ成年後見センターセンター長　宇佐美千尋氏

第3回　10月13日(金)　13:30～

　　虐待防止委員会　各施設取り組みと現状の課題について　　　参加者17名

　　　明星学園、阿智温泉療護園より取り組みの発表、参加事業所や事前アンケートを基に意見交換を行う。

第4回　12月12日（火）　13:30～

　　虐待事例検討　　　　参加者16名

　　　・飯田市の過去3年間の対応状況

　　　・飯田市よりの事例提供を受け、対応などグループワームを行う。

* Ｒ6年2月9日(金)　13:30～　三役会にて今年度のまとめ

３．今年度の振り返り

　　今年度は、基礎的な虐待防止について、各事業所の虐待防止委員会の取り組みと意見交換、事例検討と虐待防止関係の研修を中心に行った。

・基礎研修では基本に戻って振り返りができた、日ごろから業務の振り返りをして虐待に相当するか考えていきたい、職員間で必要性を共有しサービス向上につなげたい等の感想が寄せられた。

・各事業所の虐待防止委員会の取り組みについては、各事業所の取り組み内容がわかり参考になった、自分の事業所でも取り入れたい内容があり持ち帰って検討したい等有意義な会であったとの感想が多かった。一方課題としては職員間の意識の違い（正職員と非正規職員、新入職員）、コミュニケーション不足に起因することもあり、職員研修の必要性や、職員間で相談のできる環境作りの必要性があげられた。

・事例検討では身近な事例であり、グループワークを通して他事業所の人達の意見を聞くことで深めることができた、虐待に対する意識を改めて持ち、繰り返し研修を受けることが大切だと思った、利用者の理解とコミュニケーションの大切さを学んだ、今後職員間でマニュアルなど細かな支援の見直しをしてそれに沿った支援に心掛けたい、行政との連携を密にしたい等の感想であった。

・どの会も参加者は虐待防止の理解が深まり有意義な会であり、事業所に帰って職員間で共有したいとのことであった。更に虐待防止のためには職員間の共通認識、意思疎通、相談できる環境作りが必要であるという感想が多かった。

成年後見の研修では具体的な事例提供がありわかりやすく理解できた、利用者の

高齢化や知的判断が困難な利用者が増える中、関係機関との連携・チーム作りの

大切さを学んだとの感想であった。

４．来年度に向けて

　・実際のケースを知り、議論できる場があれば理解が深まる。

・講義だけでなくグループワークで各事業所の状況やそれぞれの考え方を知ることができ参考になり業務に生かすことができる。事例検討を行ってほしい。

・日ごろあまり関わらない後見制度などの研修を受け、事業所に持ち帰り利用者支援に役立てたい。

　・市町村（障がい者虐待防止センター）の虐待対応を知り連携をしていきたい。